



TITLE:

大浦康介教授 略歴・著作目録

AUTHOR(S):

CITATION:

大浦康介教授 略歴・著作目録. 人文學報 2018, 112: 139-143

ISSUE DATE:

2018-06-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/235921>

RIGHT:

大浦康介教授 略歴・著作目録

略 歴

学 歴

1970年3月	京都市立搭南高等学校卒業
1975年3月	京都大学文学部（フランス語学・フランス文学専攻）卒業
1980年3月	京都大学大学院文学研究科修士課程（同専攻）修了
1981年10月～1984年6月	パリ高等師範学校（École Normale Supérieure, rue d'Ulm）在学
1986年3月	京都大学大学院文学研究科博士後期課程（同専攻）単位取得退学
1986年6月	パリ第7大学大学院第三期博士課程（フランス文学・比較文学）修了

職 歴

1986年4月～1987年3月	京都大学文学部助手
1987年4月～1989年3月	甲南女子大学文学部助教授
1989年4月～2004年3月	京都大学人文科学研究所助教授 京都大学大学院文学研究科助教授（併任）
2004年4月～2017年3月	京都大学人文科学研究所教授 京都大学大学院文学研究科教授（併任）

学 位

1975年3月	京都大学文学士
1980年3月	京都大学文学修士
1982年6月	パリ第7大学 DEA（Diplôme d'Etudes Approfondies）
1986年6月	パリ第7大学第三期課程博士

委 員 等

1987年4月～2002年10月	国際仏文研究誌 <i>Equinoxe</i> 編集委員
2002年4月～2003年3月	日本フランス語フランス文学会代表幹事
2002年6月～2017年5月	（株）京都放送番組審議会委員
2003年4月～2005年3月	日本フランス語フランス文学会関西支部会誌編集委員

受 賞 等

1997年1月	フランス政府よりパルム・アカデミック（シュヴァリエ）受章
---------	------------------------------

主要業績

編 著 書

- ・『文学をいかに語るか——方法論とトボス』（編著），新曜社，1996
- ・『哲学を読む——考える愉しみのために』（共編著），人文書院，2000
- ・『Fiction de l'Occident, fiction de l'Orient / 西洋のフィクション・東洋のフィクション』（編著），京都大学人文科学研究所共同研究資料叢刊 8，京都大学人文科学研究所，2010
- ・『共同研究 ポルノグラフィー』（編著），平凡社，2011
- ・『誘惑論・実践編』晃洋書房，2011
- ・『フィクション論への誘い——文学・歴史・遊び・人間』（編著），世界思想社，2013
- ・『日本の文学理論——アンソロジー』（ベータ版）（編著），京都大学人文科学研究所，2015
- ・『対面的——〈見つめ合い〉の人間学』筑摩書房，2016
- ・『日本の文学理論——アンソロジー』（編著），水声社，2017

訳 書

- ・Kenji Nakagami, *La Mer aux arbres morts*（仏訳・共訳），Paris, Fayard, 1989
- ・ピエール・バイヤール『アクロイドを殺したのはだれか』筑摩書房，2001
- ・ウォルター・ケンドリック『シークレット・ミュージアム——猥褻と検閲の近代』（監修・共訳），平凡社，2007
- ・ヤン・アペリ『ファラゴ』河出書房新社，2008
- ・ピエール・バイヤール『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房，2008（ちくま学芸文庫，2016）

主要論文

- ・«Des *Essais critiques* à *S/Z* : lecture de Barthes»『仏文研究』9，京都大学フランス語フランス文学研究室，1980
- ・«Cet obscur objet du discours», *Critique* 428-429, Paris, Ed. de Minuit, 1983
- ・«Roman journal et mise en scène “éditoriale”, *Poétique* 69, Paris, Ed. de Seuil, 1987
- ・«Autour de la *Gradiva* : mythe, rêve et littérature»『ヨーロッパ文学研究』11，甲南女子大学フランス文学会，1988
- ・«Etude sur le roman journal français», *Etudes de Langue et Littérature françaises* 52, Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises, 1988
- ・«Aspects du roman journal français»『ヨーロッパ文学研究』12，甲南女子大学フランス文学会，1989
- ・«Narrateur e(s)t personnage < I > — dans les marges d'une étude sur le roman journal français», *Zinbun* 24, 京都大学人文科学研究所，1989
- ・「自然から想像力へ——ロマン主義的想像力を考える」，宇佐美育編『フランスロマン主義と現代』筑摩書房，1991
- ・「日記と小説のあいだ——『鍵』をめぐる」『文学』2-3，岩波書店，1991
- ・「『讃歌』から」『國文學』36-14，學燈社，1991
- ・«Narrateur e(s)t personnage < II > — dans les marges d'une étude sur le roman journal français», *Zinbun* 26, 京都大学人文科学研究所，1991

- ・«Narrateur e(s)t personnage <III>— dans les marges d'une étude sur le roman journal français», *Zinbun* 27, 京都大学人文科学研究所, 1992
- ・「村上流——感覚の思想と『イビサ』」『國文學』38-3, 學燈社, 1993
- ・«L'imagination romantique et la nature», *Equinoxe* 10, Rinsen Books, 1993
- ・「開かれた文学, 開かれた批評——『現代批評理論——22のキーワード』を読む」『文学』5-4, 岩波書店, 1994
- ・「文学についての学問は可能か——漱石にみる文学と科学」, 山田慶兒・阪上孝編『人文学のアナトミー』岩波書店, 1995
- ・「文学理論」, 大浦康介編『文学をいかに語るか』新曜社, 1996
- ・「フィクション」, 同書
- ・「第三夜——開かれたテキスト」『漱石研究』8, 翰林書房, 1997
- ・「サドが〈神〉を口にするとき」阪上孝編『統治技法の近代』同文館, 1997
- ・「〈内的独白〉の誕生——E・デュジャルダンの『月桂樹は刈られた』をめぐって」宇佐美斉編『象徴主義の光と影』ミネルヴァ書房, 1997
- ・「ひとはなぜ自分自身のテキストが読めないのか——テキストの一般性にかんする受容理論的考察」『人文學報』81, 京都大学人文科学研究所, 1998
- ・«Le monologue symbolique? — à propos des *Lauriers sont coupés*», *Equinoxe* 15, Rinsen Books, 1998
- ・「漱石作品のナラトロジー——写生文の概念をめぐって」『人文學報』83, 京都大学人文科学研究所, 2000 (『国文学年次別論文集 平成12年度版』学術文献刊行会, 朋文出版, 2002に転載)
- ・«Figurines chez Sade», *Equinoxe* 17-18 (Actes du colloque franco-japonais 1998), Rinsen Books, 2000
- ・「イエナ派と近代——初期ロマン派にみる〈組織化〉の黎明」『人文學報』84, 京都大学人文科学研究所, 2001
- ・「宣言の時代とアヴァンギャルド」, 宇佐美斉編『アヴァンギャルドの世紀』京都大学学術出版会, 2001
- ・「写生文と小説のあいだ——漱石『草枕』『虞美人草』『坑夫』」, 北岡誠司・三野博司編『小説のナラトロジー』世界思想社, 2003
- ・「フランス構造主義」『岩波講座〈文学〉別巻・文学理論』岩波書店, 2004
- ・«Barthes théoricien? — à propos de sa théorie antimimétique», *UTCP Bulletin* vol. 2, University of Tokyo Center of Philosophy, 2004
- ・«Sade entre vie et fiction», *Lire Sade* (Actes du premier colloque international Sade en Amérique du Nord), Paris, L'Harmattan, 2004
- ・「ボルノの身体とは何か——表象理論と身体」, 菊地暁編『身体論のすすめ』丸善, 2005
- ・「ボルノグラフィーにおける言葉と身体——リベルタン小説と猥褻語」, 吉田城・田口紀子編『身体のフランス文学——ラブレーからブルーストへ』京都大学学術出版会, 2006
- ・「〈日本〉を書く——ピエール・ロティ『お菊さん』の位置」, 宇佐美斉編『日仏交感の近代——文学・美術・音楽』京都大学学術出版会, 2006
- ・«Le *watakushi-shōsetsu* et la fiction»/「私小説とフィクション」, 大浦康介編『Fiction de l'Occident, fiction de l'Orient / 西洋のフィクション・東洋のフィクション』京都大学人文科学研究所, 2010
- ・«Procès de la fiction, procès de la littérature : sur quelques cas au Japon», Anne Duprat et Françoise Lavocat (eds), *Fiction et cultures*, coll. «Poétiques comparatistes», Société française de littérature générale et comparée, 2010

- ・「桑原武夫「第二芸術論」のことなど」,『創造する市民』96,京都市生涯学習総合センター,2011
- ・「桑原武夫編『文学理論の研究』を読む」『人文學報』101,京都大学人文科学研究所,2011
- ・「序に代えて——ボルノ研究のスペクトル」,大浦康介編『共同研究 ボルノグラフィー』平凡社,2011
- ・「扇情のレトリック・猥褻のロジック——^{ヌード}裸体画から初期ボルノ写真へ」,同書
- ・「虚構の知恵・「ウソ」の効用」『世界思想』38,世界思想社,2011(高等学校国語科用教科書『現代文B』数研出版2014に再録)
- ・「序論 フィクション論の問題圏」,大浦康介編『フィクション論への誘い』世界思想社,2013
- ・「透明人間の夢——SFと〈本当らしさ〉」,同書
- ・「『わが秘密の生涯』を読む——性をめぐる自伝とフィクション」,森本淳生編『〈生表象〉の近代——自伝・フィクション・学知』水声社,2015
- ・«Le romanesque selon Barthes», *Littera* (Revue de langue et littérature françaises) No. 1, 日本フランス語フランス文学, 2016
- ・“Fiction and Fictionality in Japanese Culture : *Shishōsetsu* (I-Novel) and “Otaku” Culture”, *Annals of “Dimitrie Cantemir” Christian University*, Vol. XVI, No. 1, “ Dimitrie Cantemir ” Christian University, Faculty of Foreign Languages and Literature, 2016
- ・「谷崎と〈本当らしさ〉」,五味渕典嗣・日高佳紀編『谷崎潤一郎讀本』翰林書房,2016

エッセイ, コラム, インタビュー, 対談, 事典項目等

- ・«Kyoto-Paris, journal intime», *L'Express*, Paris, 1985
- ・«La Tradition selon Nakagami»(中上健次へのインタビュー), *Magazine littéraire* 216-217, 1985
- ・「ポエティックの過去と現在」(ジェラルド・ジュネットへのインタビュー)『現代思想』13-13, 青土社, 1985(ジェラルド・ジュネット『フィギュールⅢ』水声社, 1987に再録)
- ・「反復」,『文学』54-11, 岩波書店, 1986
- ・「「染まる」ということ (1)」『文学』54-12, 岩波書店, 1986
- ・「「染まる」ということ (2)」『文学』55-1, 岩波書店, 1987
- ・「『文学論』序」,『文学』2-1, 岩波書店, 1991
- ・「構造分析」,「テキスト／コンテクスト」『國文學』36-7〈現代批評のキーワード〉, 學燈社, 1991
- ・「追悼・中上健次」(浅田彰との対談),『STURM (シュトルム)』3, 1993
- ・«Le grand cinéma des échanges culturels», *Les Voix* 63, 1993
- ・「アミエル (アンリ=フレデリック)」『世界文学大事典』第1巻, 集英社, 1996
- ・「テキスト」,「バラテキスト」『世界文学大事典』第5巻, 集英社, 1997
- ・「テレビのある風景」『京都新聞』(57回連載), 1997.11~1998.12
- ・「読みものとしての日記」『ジュール・ルナール全集12』月報, 臨川書店, 1998
- ・«Les cafés philosophiques : mode ou symptôme», *Les Voix* 81, 1998
- ・«La fiction, aujourd'hui» (フィリップ・フォレストとの対談), *F Journal*, Institut franco-japonais du Kansai, 1999
- ・「ブルーストと漫画」『ブルースト全集・別巻・ブルースト研究／年譜』月報, 筑摩書房, 1999
- ・«Conversation à Kyoto» (フィリップ・フォレストとの対談), *Neige d'août* 5, Nevers, 2001
- ・«Mes années a-normales», *Bulletin de la Société des Amis de l'École Normale Supérieure* 220, Ed. S. E. R. P., Paris, 2001

- ・「戦争に寄せて」『現代文学』67, 2003
- ・「淫らな告白——日仏翻訳事情の一断面」, 宇佐美斉編『日仏交感の近代』京都大学学術出版会, 2006
- ・「未読書コメント術」『ちくま』No.453, 筑摩書房, 2008
- ・「ディディエ・ガラスの〈旅〉」『劇場文化』SPAC(財)静岡県舞台芸術センター, 2010
- ・〈現代のことば〉『京都新聞』(12回連載), 2012.7~2014.5 (うち「「遠くを見よ」は正しいか」を日本文藝家協会(林真理子ほか)編『ベスト・エッセイ2013』光村図書出版, 2013に再録)
- ・「ガンつける」『新潮』2013年11月号(『ベスト・エッセイ2014』光村図書出版, 2014に再録)
- ・「10周年に寄せて」『人文研アカデミーの10年』京都大学人文科学研究所, 2017
- ・「おれとハイヒール」, 田中雅一編『フェティシズム研究3 侵犯する身体』京都大学学術出版会, 2017
- ・「選択の自由と不自由」『ニューサポート 高校国語』28, 東京書籍, 2017